

科学的根拠ない「人種」差別はなくせる

世界中にはびこる人種差別。実は、そもそも「人種」に科学的な根拠はない、という。でも日本人は黄色人種とされ、白人も黒人もいるのではないか。

「歴史的に見れば、日本人や東アジアの人たちを黄色人種と捉えるのは自然でも普遍的でもありません。中世の宣教師たちは、日本人の肌を『白い』と記しているんです」
「日本人が自らの肌を黄色」と考えていたわけでもありません。安土桃山時代から江戸初期に日本人が描いた南蛮びょうぶ図を見ると、スペイン、

それぞれの 人権 新時代

ポルトガルの宣教師たちよりも、日本の身分の高い侍や女性の肌の方が白く描かれています」
人種の分類を示す「コーカソイド（白色人種）」「モンゴロイド（黄色人種）」「ネ

文化人類学者 竹沢 泰子さん(65)



関西外国語大国際文化研究所教授、京大名誉教授。専門は人種・エスニシティ論、移民研究。近著に「アメリカの人種主義」。

グロイド（黒色人種）」は、地理や世界史の教科書にも掲載され、広く浸透している。「生物学的な根拠はなく、時代遅れの誤った解釈です。『人種』という言葉をあつかも生物学的に実体があるかの

ように科学用語、医療用語として使うことは人種主義（レイシズム）的だと見なされま

て、紫外線に関係する疾患を除けば遺伝学的意味がほとんどないことが分かってきています。ヒトのほとんどの遺伝子は地域を超えて共有されています。ある集団と別の集団における違いよりも、同じ集団における個人間の違いがはるかに大きい。違いは色彩のグラデーションのように連続していて、境界線をはっきりと決められるものではありません」

「肌の色は、紫外線の強さの違いなど世界各地の環境に応じて差異が生じるのであります」
「人種の色は、紫外線

のだけでなく、『血』や出自を巡る見方も含まれる。被差別部落、アイヌ、在日コリアンに対する差別も『人種化』された問題と言ったことができます」
強調するのは、人種や、それに伴う差別が人間によってつくられたものならば、私たちの手でなくすことができるはずだ、ということ。
「『差別はなくならない』と考える人は少なくないですが、それは違うと考えています。差別の歴史を見つめ直し、ヒトの多様性を真に理解することは、自らの差別意識や偏見に気づき、修正することにつながります。人間は変わり得るんだ、と信じることにつながるんです」（山口新太郎）